



# つるぎ町一字総合学術調査 報告書の発刊にあたって

徳島県立図書館長 林 善 章

この度、つるぎ町一字総合学術調査の成果がまとまり、その報告書として「阿波学会紀要第57号」を発刊する運びとなりました。

この総合学術調査は、徳島県立図書館と徳島県内の各研究団体で構成されている阿波学会との共催事業となっており、その活動は半世紀を超える長い歴史を持っております。本調査は毎年、県内1市町村を対象として、自然・人文・社会・医学など幅広いジャンルの調査研究報告を行うという全国でも他に類を見ないものであり、その研究成果は県下のみならず全国的にも大きく注目され、高い評価をいただいております。

平成22年度の調査は、つるぎ町一字地区を対象として、平成22年7月30日から8月8日までの10日間を中心に行われ、通年で調査を行う班を含めて、自然・人文・社会・医学など多方面にわたる合計16班、総勢100名余りの調査員が参加した盛大なものとなりました。

今回の調査対象地域のつるぎ町では、既に昭和56年度に「旧貞光町」、平成3年度に「旧半田町」が調査を完了しており、今回の「旧一字村」の調査をもちまして、つるぎ町内全域の調査が終了したことになります。今後この成果がつるぎ町の郷土環境の保全や歴史・文化財研究等の活性化の一助となり、つるぎ町発展のためにいささかなりとも貢献できますならば、大変ありがたいことと考えております。

なお、本年度の調査活動によって得られました数多くの貴重な成果につきましては、平成22年12月5日に一字公民館で行われました発表会におきましてもご紹介をさせていただきましたが、それらをまとめましたものがこの「阿波学会紀要第57号」となります。詳しい成果内容につきましては、各班の本編論文をご覧くださいと思います。

最後になりましたが、今回の調査に当たりまして、格別のご理解と一方ならぬご尽力をいただきました兼西茂町長をはじめ、つるぎ町教育委員会関係職員の方々、ご協力をいただきました地域の方々、また、猛暑の中あるいは寒風の中、熱心にご調査をいただきまして、大変お忙しいところにもかかわらず分析研究報告をいただきました小林勝美会長をはじめ、阿波学会会員の皆様には、紙面をお借りいたしまして心より厚くお礼を申し上げまして、発刊に際しましてのごあいさつとさせていただきます。